

早稲田大学 人間科学部 世界史 講評

出題形式	マーク式
試験時間	60分
特徴・その他	全問選択問題。大問4は2022年と同じ。2021年には大問5だった。2020年は大問4、2019年は大問5だった。問題総数は45問。2022年の46問から1問減少。2021年は47問から2年続けて減った。各大問とも設問Xは空欄補充形式の語句選択、設問Yは文章正誤判定の形式で定着。2021年復活した地図問題は2022年に続いて出題されなかった。設問Xは基礎的なものが大半。設問Yの文章正誤の中には正誤判定のポイントが細かいものが散見される。全体として難易度は前年並み。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	インドの歴史	設問X：A-正解はc パータリプトラ。インドに限らず王朝の首都は基礎事項。B-正解はa エフタル。C-正解はd ヴァルダナ朝。設問Y：①-正解はd。シク教の教祖はナーナク。カービルはバクティ信仰を説いた人物。②-正解はb タレントウム。タレントウムはギリシア人植民市としてよく出題されている。アレクサンドロスの東方遠征は教科書の定番地図なのできちんと参照していれば即答できる。③-正解はd。アンコール=ワットは建立当初はヒンドゥー寺院でのちに仏教寺院に改装されている。④-正解はd。ナーランダーはインド東部ビハール州に所在。⑤-正解はa。ポルトガルが拠点としたのはゴア。⑥-正解はa。ブラッシーの戦い(1757)と連動するのは七年戦争(1750～63)。⑦-正解はa。B全インド=ムスリム連盟結成(1906)→Dローラット法(1919)→Aプールナ=スワラージ決議(会議派ラホール大会)(1929)→C塩の行進(1930)の順。⑧-正解はb。スリランカでシンハラ人は多数派。	やや易
II	民族大移動期のヨーロッパ	設問X：A-正解はb ケルト。B-正解はd カペー。リード文の「パリ伯ウード」は細かいが「10世紀末」ですぐわかる。またカペー朝(987～1328)初代のユーグ=カペーも「パリ伯」。C-正解はa アルフレッド大王。D-正解はc ウラディミル1世。設問Y：①-正解はd。『ガリア戦記』と『ゲルマニア』の順が逆。『ガリア戦記』は前51年の遠征記録、『ゲルマニア』は後1世紀の記録。②-正解はa。五賢帝の順(ネルヴァ→トラヤヌス→ハドリアヌス→アントニヌス=ピウス→マルクス=アウレリウス=アントニヌス)を想起すればaかcの二択。あとはテオドシウスとユリアヌスの前後を判定。ユリアヌス(位361～363)は異教の復活を企て「背教者」と呼ばれた。テオドシウスは392年のキリスト教国教化(キリスト教以外を禁止)で最後とわかる。③-正解はa。西ゴート王国(418～711)の都は建国当初はトロサ(南仏トゥールーズ)、507年以降はイベリア半島のトレド。コルドバは後ウマイヤ朝(756～1031)の都。④-正解はc ガリバルディ。青年イタリアの指導者でイタリア統一の立役者として重要。⑤-正解はc。エドワード1世はプランタジネット朝(1154～1399)の王。⑥-正解はa。b=ユスティニアヌスはサン=ピエトロは無関係。c=第4回十字軍が占領した都はコンスタンティノープル。d=ビザンツ帝国を滅ぼしたのはメフメト2世。⑦-正解はd バトゥ。このあたりは非常に易しい。	標準 一部易

番号	出題内容	コメント	難易度
Ⅲ	中国の「皇帝号」	設問X：A-正解はb 斉。B-正解d 劉邦。C-正解はb 朱元璋。D-正解はc 女真。E-正解はa ホンタイジ。設問Y：①-正解はa。bの鄒衍とcの孟子は秦の強大化と無関係。d-蘇秦の合従策は六国が同盟して秦に対抗しようとするもの。②-正解はb「靖康の変」(1126～27)。a-八王の乱(290～306)。帝位を争った八王らはそれぞれ異民族の軍事集団を用いた。その結果、本来は塞外にあった異民族集団が都に蟠踞することになり、永嘉の乱(311～16)を招いた。c-黄巢の乱(875～84)の黄巢は反乱指導者の名。d-黄巾の乱(184)は反乱軍の旗印からの命名。③-正解はc。高句麗には「单于」号使用の事実はない。※b-冒頓が烏孫を撃ったという事実はない。そのためbも誤文とみなされる。しかしcが明らかに誤っているのでcを正解とした。④-正解はc。北宋滅亡は靖康の変(1126～27)。滅ぼしたのは金。⑤-正解はa。カラコルムを建設したのはオゴタイ=ハン。⑥-正解はd。(1)『崇禎曆書』の崇禎帝は明滅亡時の皇帝なので(1)がラストは確定しbかdの二択となる。永楽帝は3代皇帝、土木の変(1449)は15世紀なので(3)が先頭となる。⑦-正解はb。戊戌の変法(1898)は光緒帝。	標準 一部難
Ⅳ	現代西欧の思想	設問X：A-正解はb ニーチェ。「神は死んだ」はニーチェの言葉としてはあまりにも有名。B-正解はd ソンムの戦い。第一次大戦で本格的に使用された兵器としては毒ガス(イーブルの戦い(1915年4月))と戦車が頻出。そのどちらも塹壕戦での機関銃による被害が甚大であったことへの対処として登場した。塹壕戦・機関銃・戦車といった20世紀の陸戦は21世紀では過去の遺物とみなされていたが、ロシアのウクライナ侵攻で再現されてしまった。C-正解はa アルジェリア戦争。設問Y：①-正解はb。展開がぐちゃぐちゃ。1917年(西暦に統一)の展開は、三月革命(3月12日)→ニコライ2世退位(3月15日)/臨時政府成立(15日)→レーニン帰国「四月テーゼ」(4月17日)→七月事件(7月16日)→臨時政府、ケレンスキー内閣成立(8月6日)→コルニーロフ(反革命派)反乱(9月7日)→11月6日 十一月革命ボリシェヴィキ蜂起→レーニン、ソヴィエト政府組織・「平和に関する布告」「土地に関する布告」。d-1989年東欧革命の展開も細かすぎる事実関係の記述で疑えばきりがない。ポーランドで共産党独裁政権から複数政党政に転換する結果を生んだ上院選挙は89年6月4日、ハンガリーがプロレタリア独裁廃止を宣言したのは6月23日。②-正解はd。オーストリアの講和条約はサンジェルマン条約。トリアノン条約はハンガリー。③-正解はa。スペインは二次大戦には中立国として臨んだ。④-正解はc。ベトナム社会主義共和国を建国したのは北ベトナム(ベトナム民主共和国)。⑤-正解はc。デカルトは演繹法。⑥-正解はb。「社会や学問の進歩を讃えたルソー」が誤り。ルソーは自然状態を賛美した。⑦-正解はd。アメリカは京都議定書(1997)で主導的役割をはたしていない。⑧-正解はa。レーガンやサッチャーは「大きな政府」ではなく「小さな政府」。世界恐慌から第二次大戦の戦時体制を通じて先進諸国では政府の役割が拡大した。この傾向に対する反動ともいえるのが新自由主義(ネオリベリズム)で、公的事業を見直して民営化を推進するのが特徴。公営は非効率で民間(多くの場合は営利事業)は効率的というのが大前提。しかし、その効率化の掛け声のもと福祉や教育といった営利に直接結びつかない分野が疎かにされる傾向が強い。	やや難

[総合コメント]

設問Xの空欄補充問題は基礎的内容ばかりで易しい。ただ易しい問題につきもののケアレスミスは侮れないので細心の注意、とくに問題文の設定は繰り返して確認しておきたい。設問Yの正誤判定問題はかなり細かい問題と比較的易しいものが混在している。一見して判定をつけづらい場合は時間をおいて見直すといい。人科の世界史は問題構成が固定されている。過去問を繰り返すことで取りつきが楽になる。遡れるところまで過去問を入手して最低でも2～3回はやっておきたい。書店に出ている赤本などだけでは不十分である。また正誤判定のポイントとして年代がねらわれるケースが目立つ。教科書レベルの年代は網羅し、さらに連続する事態は事実関係の展開とあわせて脈絡を把握しておかねばならない。細かい知識の集積は、基本は山川『世界史用語集』の読み込みで、項目の説明文中に登場する固有名詞ももらさずおさえてしておく必要がある。余裕があれば東京書籍の『世界史用語集』との併用も有効である。用語集の二冊使いは面倒ではあるが、同じ項目についての説明文の微妙な違いがわかり有益である。あと最近は時事的事項の出題が続いている。2022年は大問のテーマに「東トルキスタン(新疆)」・「オリンピック」があり、今年はウクライナ関係が問われている。2014年のロシアによるクリミア併合などは受験生用の参考書・用語集では取り扱っていない。普段から世界情勢には敏感でありたい。昨年の本講評で「現時点でいうと「ウクライナ」関係などは要注意である」と記したがその通りになった。ウクライナ関係はロシアも含めて今後も要注意である。またトルコ・シリアの大地震に関連して自然災害といったテーマも予想される。